

## 第 4 期 中期目標 (H30～34)

[平成 30 年 3 月 1 日 文部科学大臣指示]

### 主なポイント

#### 基本的な考え方

- 「独立行政法人日本スポーツ振興センター見直し内容」(文部科学省, 平成 29 年 8 月 25 日) での指摘を踏まえた内容
- 目標の達成状況が見える化し、評価を効率的に実施できるよう、できる限り定量的な評価指標を設定 (「目標水準の考え方」もあらかじめ明示)
- 第 4 期から一部の評価項目について、新たに「重要度」「難易度」を設定
- 時間軸を意識した目標設定

#### 全体に関わる重要な数値目標等

- 一般管理費及び事業費について、中期目標期間の最終年度において、平成 29 年度比 5%以上の削減 (第 3 期は人件費を含めて 6%以上の削減)  
(IV-総論)
- 人件費について、中期目標期間の最終年度において、平成 29 年度比 5%以上の削減 (IV-総論)
- 自己収入に関して、中期目標期間の最終年度において、前中期目標期間の平均に比べ 3%以上の増加 (V-2)
- 研修の充実、適切な人員配置により職員の能力や専門性、モチベーションを向上させ、法人全体の業務成果の最大化を図る (VI-3)
- 情報セキュリティ対策の強化 (VI-4)

#### 各業務の評価指標 (ポイント)

I. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため取るべき措置

1. スポーツ施設の管理運営、並びにスポーツ施設を活用したスポーツの振興等

##### 【重要度：高】

- 新国立競技場の 2020 年東京大会後の運営管理については、コンセッション事業の導入可能性調査・マーケットサウンディング等を行い、2019 年年央を目途に、民間事業化の事業スキーム案を作成し、ワーキングチームに報告。

- 施設利用者のニーズ等を踏まえた改善を実施し、アンケートやヒアリング等による満足度調査を行い、80%以上から高評価を得る。
- 「する」「みる」「ささえる」スポーツ参加人口を前年度比で増加させる。

## 2. 国際競技力の向上のための取組

【難易度：高】

- オリンピック・パラリンピック等における我が国のトップアスリートの成績（過去最高の金メダル数を獲得する等）及び当該成績への寄与・貢献状況

## 3. スポーツ振興のための助成財源の確保と効果的な助成の実施

【重要度及び難易度：高】

- スポーツ振興くじの売上を中期目標期間の最終年度において、前中期目標期間の平均と同規模程度の売上を達成
- スポーツ振興くじによる助成により、助成した事業の「する」「みる」「ささえる」スポーツ参画人口を前年度比で増加

## 4. スポーツ・インテグリティの保護・強化

- JSCが行うドーピング防止活動の実施状況や取組内容等について、外部評価会議の点検を受け、「効果的」等の高評価を得る。
- 毎年度5つのスポーツ団体に対して継続的なモニタリングやその結果の共有等を行い、当該団体のスポーツ・インテグリティの保護・強化に関する理解促進等を図る。

## 5. 災害共済給付の実施と学校安全支援の充実

- 中期目標期間の最終年度において、子ども子育て支援新制度開始以後に災害共済給付の加入対象となった教育・保育施設の加入率を65%以上とする。
- 中期目標期間の最終年度において、平成29年度の差戻し件数と比較して10%削減
- 中期目標期間の最終年度において、学校現場に提供している事故防止のための資料等の活用状況を調査し、80%以上から高評価を得る。

## 6. 国内外の情報の分析・提供等

- JSNの取組や海外スポーツ機関とのネットワーク等から有用であると思われる情報を毎年度100件以上収集
- JSCが提供した情報が、スポーツ庁をはじめとした関係機関の政策・施策の立案過程において、有効に活用されたのかを調査し、80%以上から高評価を得る。